

## 構想段階でいただいた意見

### PI外環沿線協議会(平成14年6月～平成16年10月)

PI外環沿線協議会では、外環が整備された場合の効果と影響を中心に、約2年半、42回にわたり議論を重ねてきました。外環の必要性については、さまざまな意見が出され、共通の認識を得るには至りませんでした。住民と行政が対等な立場で向き合って議論した結果、意見の一致点、相違点が相互に認識されました。また、将来交通量や環境への影響、外環の東名以南の計画等は今後の課題として残され、引き続き必要性の議論を続けることとなりました。

なお、同協議会での意見は以下のように捉えました。

#### 1. 必要性の有無についての論点

- 外環の整備効果として渋滞の緩和、広域交通の利便性の向上、経済効果、大気環境の改善等が見込まれることなどについては、十分な理解を得るには至らなかった。
- 大気、騒音・振動、地下水、生態系等の環境に与える影響や、地域分断、移転、交通集中等の生活に与える影響を心配する意見が多く、環境や生活への影響や対策に関して詳細な検討が必要である。
- 換気所設置の影響に対する懸念が強く、換気所に関する情報を速やかに提示するとともに、影響や対策を検討する必要がある。
- 将来交通量や環境への影響など、必要性を議論するためのデータが不十分であるとの意見に対応するため、検討の各段階で適切な資料を提示していくことが重要である。
- 外環整備以外の施策で交通問題を改善できるのではないかと、あるいは誘発交通により交通混雑を招くのではないかなどの指摘を踏まえて、外環整備とその他の施策の役割や誘発交通について示していくことが重要である。

#### 2. その他の論点

- 昭和41年の都市計画決定に関し、反省すべき点もあり、計画検討プロセスの重要性をあらためて認識した。
- 「東京外かく環状道路に関する方針について」の公表や環境影響評価方法書の公告・縦覧の仕方等に関し、PIを軽視しているなどの意見があり、今後の検討にあたっては、プロセスを重視し、信頼関係を構築していくことが重要である。
- 都市計画決定当時のルートの考え方や、現時点のルートについて疑問があったことから、ルートについての理解を得ていく必要がある。
- インターチェンジ周辺の道路への交通集中や環境への影響に懸念を示す意見がある一方、利便性のためにインターチェンジは必要であるとする意見もあったことから、インターチェンジについては地元の意向を把握しながら検討する必要がある。
- 地上部街路については、高速道路の必要性の有無と切り離し、高速道路の議論がある程度集約された段階で検討する必要がある。
- いわゆる練馬の問題の議論を踏まえ、外環整備とあわせた周辺道路整備やまちづくりについての検討が必要である。また、外環の東名以南の区間の検討を進める必要がある。

#### 3. PI外環沿線協議会後の進め方

- 引き続き必要性の議論を行う場を設ける必要がある。(平成17年1月PI外環沿線会議を設置)
- 構想段階以降も、計画段階、事業中の段階、供用後の各段階で、広く意見を聴きながら進める必要がある。

### PI外環沿線会議(平成17年1月～8月)

PI外環沿線会議では、外環の必要性及びPI外環沿線協議会2年間のとりまとめにおいて今後の課題とされた事項などについて、引き続き議論されました。将来交通量、環境調査の結果などが提示され、外環の必要性に関する議論が進んだことから、平成17年8月には各委員から構想段階の区切りにあたっての総括的な意見表明がなされ、構想段階における議論を終えることとなりました。

なお、同会議での意見は以下のように捉えました。

#### 1. PIについて

- 行政と住民が原点に立ち戻って議論してきたことについては不十分な点や課題があるものの、PI外環沿線協議会やPI外環沿線会議で議論してきたことについては評価されている。
- PI外環沿線協議会から約3年間にわたって議論しており、構想段階で議論すべき内容は尽くしたと考えており、今後は地域の関心が高い具体的な課題の検討が必要である。
- PI方式での検討における第三者機関の必要性や時間管理の重要性等が指摘されたことを踏まえ、今後PIを進める上で対応を検討する必要がある。

#### 2. 外環の必要性について

- 外環が必要との意見の主な理由は、持続的な経済発展や利便性、円滑な物流の確保、首都圏全体の交通問題解消等であった。
- 外環に反対する意見の主な理由は、沿線地域の生活への影響や自然環境への影響、自動車交通の増加への懸念、少子高齢化の進展、財政面の不安、外環の採算性への疑問であった。
- 渋滞解消や時間短縮の効果ではなく、まちづくりや都市構造、交通体系全体での位置づけといった観点での外環の必要性の検討が重要である。

#### 3. 環境への影響について

- 環境への影響に対する懸念に対応するため、具体的な計画に基づき、沿線地域への影響を予測、評価し、意見を聴きながら保全対策等の検討を進める必要がある。
- 外環を整備することにより潜在的な需要が喚起されて環境が悪化するとの懸念に対応するため、今後も将来交通量予測の精度向上等に努めていく必要がある。

#### 4. 今後の検討の進め方について

- 沿線住民にとって現在の状況が続くことは問題であり、早期に結論を出す必要がある。
- 地域毎の課題や具体的な計画に基づく環境への影響と対策などに関して、沿線住民に情報を提供し、意見を聴きながら検討することが必要である。
- 計画段階においても沿線地域の環境への影響が大きいことが判明した場合、計画を止めることもありうるとの認識のもとで検討を進める必要がある。

#### 5. その他

- 周辺環境への影響等からインターチェンジの設置は疑問であるといった意見を踏まえ、インターチェンジの設置については引き続き意見を聴きながら検討を進めていく必要がある。
- ルート、地上部街路等の議論が不足しているとの指摘があり、引き続き理解を得るための努力を続ける必要がある。
- 外環の東名以南の区間の検討を進める必要がある。